

# 学術共通語彙に関する音声知識と文字知識の違い

— 中国語および韓国語を第一言語とする

日本語学習者に焦点を当てて—

第22回専門日本語教育学会研究討論会

( \* 新型コロナウイルスで金沢大学での発表がなかったためスライドのみの発表)

2020年3月6日

佐藤尚子(千葉大学)

松下達彦(東京大学)

笹尾洋介(京都大学)

田島ますみ(中央学院大学)

橋本美香(川崎医科大学)

# 1. 問題の背景と研究課題

- 大学の講義や教科書には、専門用語のほかに、分野に関わらず学術的な文脈で用いられる学術共通語彙が高頻度で現れる
- 学術共通語彙の理解は、日本の大学で学ぶ留学生には必須
- 日本語の学術共通語彙は漢語の出現頻度が高いため（松下2011）、文字モードによるテストでは、漢字圏の学生が高得点を獲得する傾向にある（松下ほか2016, 2018）

# 1. 問題の背景と研究課題

- 漢字圏の学生は、同じ学術共通語彙を聞いたときに同じように理解できるか
- 本研究グループでは、文字版と同じ問題を使用した音声版のテストを開発

## 【研究課題】

文字リテラシーの高い中国人学生および韓国人学生は音声モードの日本語学術共通語彙を文字モードと同程度に理解できるか

## 2. 日本語学術共通語彙テスト (Version 2.3)

- 「学術共通語彙」とは、一般的なテキストに比べて学術的なテキストでより高い使用率を占める語彙
- 松下（2011）が日本語の大規模書き言葉コーパスから計量的な手法によって抽出した「日本語学術共通語彙リスト」をもとにテストを開発
- 今回、使用したのはVersion 2.3
- テストの対象語は一般語彙も含めた総合的なデータベースにおける使用頻度順位を基準に選定
- 頻度順位上位2万語の中から250語に1語を抽出することとし、可能な限り頻度順位が等間隔に近づくように抽出

## 2. 日本語学術共通語彙テスト (Version 2.3)

- 対象語：学術共通語彙から頻度順に等間隔で抽出した75語  
(250語に1語、初級語彙を除き、2万語レベルまで)
- テストの形式：対象語と対象語を含む文（語義のヒントを与えないような文）を示した後、三つの選択肢から最も意味が近いものを選ぶ形式（図1、図2）
- それぞれの問題の最初に対象語を、その横に対象語の品詞が分かる程度の例文を記述し、その下に選択肢を配置
- 音声版と文字版は、問題項目は同じだが、出題項目はそれぞれランダムに配列

## 2. 日本語学術共通語彙テスト (Version 2.3)

図1 音声内容：きけつ。ひとつのきけつである。

問題の形式例  
(音声版)

\* 実際の問題  
とは異なる

■ : ひとつの ■ である。

- 1) 行ったり来たりする かんけい
- 2) 最後 さいご にまとまった かんが 考えや じょうたい 状態
- 3) 初 はじ めに で 出てきた もんだい 問題

1 問15秒。計75問。例題等を含めて約20分。

## 2. 日本語学術共通語彙テスト (Version 2.3)

図2

問題の形式例  
(文字版)

\* 実際の問題とは  
異なる

帰結：<sup>ひと</sup>一つの帰結である。

- 1) 行<sup>い</sup>ったり来<sup>き</sup>たりする<sup>かんけい</sup>関係
- 2) 最<sup>さい</sup>後<sup>ご</sup>にまとまった<sup>かんが</sup>考<sup>かんが</sup>えや<sup>じょうたい</sup>状<sup>じょうたい</sup>態
- 3) 初<sup>はじ</sup>めに出<sup>で</sup>てきた<sup>もんだい</sup>問<sup>もんだい</sup>題

計75問。約20分。

### 3. テストの実施

実施時期：2019年8月～9月

対象者：韓国で日本語予備教育を受けている韓国人学生99名  
中国の大学で日本語を主専攻とする学生、  
日本語を第一外国語として学ぶ中国人学生51名（朝鮮族  
の高度な中朝バイリンガル3名を含む） 計150名

実施方法：最初に音声版（20分）を用いて対象語を伏せた問題  
用紙を見せ、解答を選ばせた  
5分休憩したのち、文字版（20分）を実施

## 4. 結果と考察

### 4.1 テストの信頼性

解答の内的的一貫性を示すクロンバック  $\alpha$  は音声版が  $\alpha = .91$ 、文字版が  $\alpha = .88$  で、十分な信頼性あり

### 4.2 テスト結果

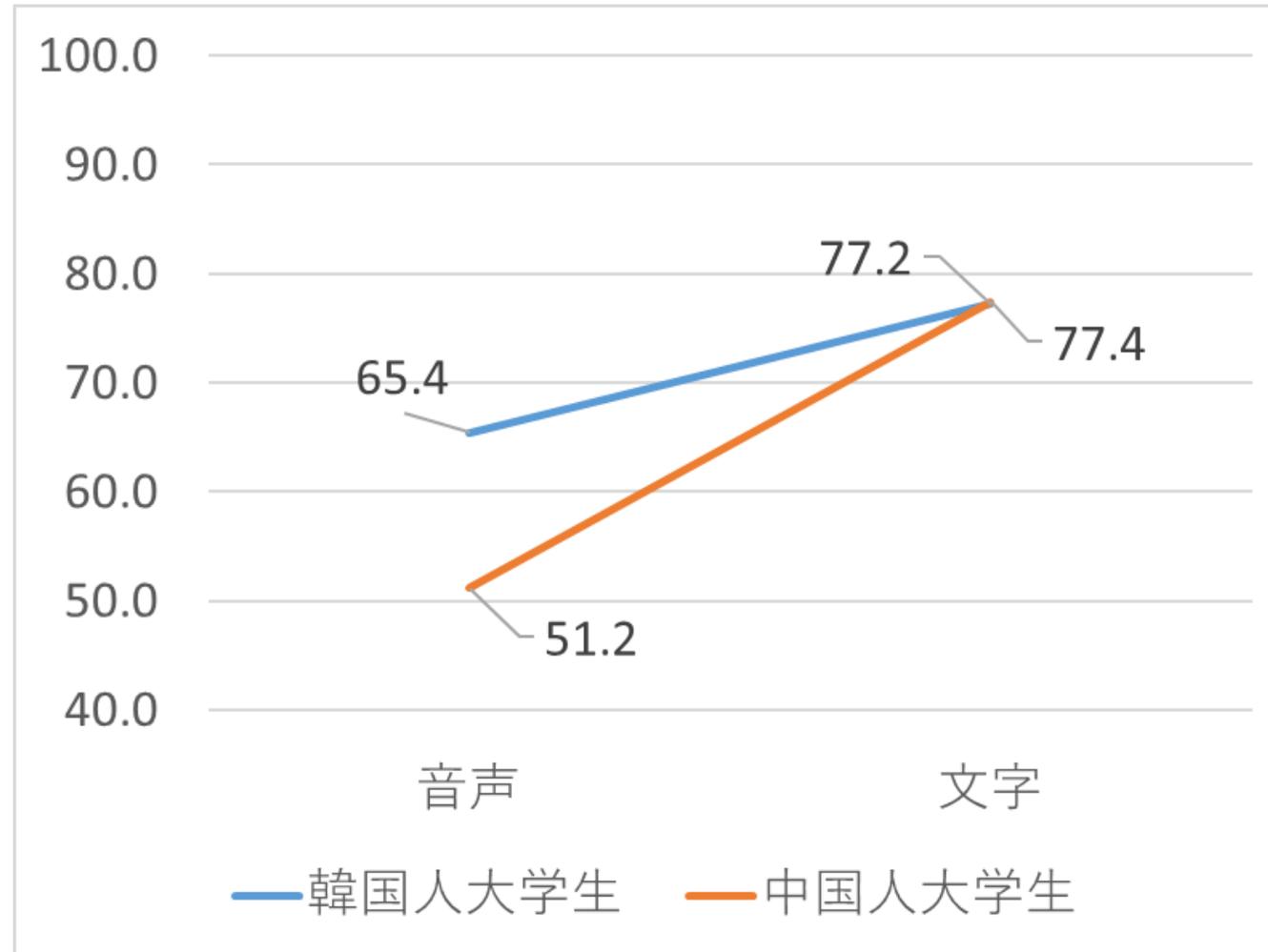
基礎統計量：表1

平均正答率：図3

表1 日本語学術共通語彙テストの基礎統計量

(75点満点)		平均	最高	最低	標準偏差
全体 (150名)	音声版	45.4	73	10	12.5
	文字版	58.0	73	8	11.2
韓国人 (99名)	音声版	49.1	73	10	12.1
	文字版	57.9	73	8	12.4
中国人 (51名)	音声版	38.4	64	14	10.0
	文字版	58.1	69	39	8.1

図3 日本語学術共通語彙テスト Ver. 2.3 平均正答率 (%)



## 4. 結果と考察

- 韓国の学生の平均（標準偏差）

音声版：49.1（12.1） 文字版：57.9（12.4）

- 中国の学生の平均（標準偏差）

音声版：38.4（10.0） 文字版：58.1（8.1）

⇒ 韓国人、中国人学生とともに音声版の平均が低かった

その差は中国人学生のほうが大きく、分散分析の結果、

統計的に有意な交互作用（ $F(148)=86.8, p<.01$ ）

音声版と文字版の得点のピアソンの相関係数は韓国人学生が

$r=.766$ 、中国の学生が  $r=.558$  で、韓国人の方が有意に高かった

（ $z=2.150, p<.05$ ）

## 4. 結果と考察

### 4.3 音声版の正答率が文字版の正答率を下回っている語

音声版の正答率が文字版の正答率を下回り、その差が大きい語は具体的にどのような語か

韓国人学生の結果：表2

中国人学生の結果：表3

表2 韓国人学生：音声版の正答率が文字版の正答率を下回っている語（6語）

項目	正答率 (%)	正答率の差（音声－文字） (%)
議事	26.3	－53.5
強力	33.3	－42.4
集合	54.5	－39.4
描画	46.5	－37.4
廃	41.4	－32.3
助成	40.4	－31.3

表3 中国人学生：音声版の正答率が文字版の正答率を下回っている語（6語）

項目	正答率 (%)	正答率の差（音声－文字） (%)
勝訴	29.4	－68.6
強力	29.4	－56.9
拙稿	29.4	－54.9
下巻	35.3	－52.9
融和	37.3	－52.9
凸	37.3	－51.0

## 4. 結果と考察

### 4.4 結果と考察のまとめ

- 韓国人学生と中国人学生の結果を比較すると、韓国人学生の方が音声版と文字版の相関が高く、正答率の差が小さかった
- 音声版の正答率が文字版を下回っている語彙は、総じて書き言葉で使われる語が多かった
- 中国人学生の音声版で正答率が低かった語彙は、文字版では母語知識での理解が容易な語が多く見られた
- 「強力」は韓国人学生も中国人学生も正答率の差が大きかった  
→これは高頻度の同音語「協力」があるからではないか

## 5. まとめ、教育への示唆と今後の課題

- 漢語については、中国人学生の場合、文字モードでは母語知識による理解が先行する傾向が強い
- 韓国人学生においても、母語である韓国語からの類推が可能な漢語も多く、日本語の音声で理解していない語もあると思われる
- 漢語の多い学術系の語彙については、音声モードによる学習・教育を強化する必要がある
- 学術語彙を含む聴解やディクテーションなどが有効だと考えられる

## 5. まとめ、教育への示唆と今後の課題

- 今後の課題

日本語母語話者である日本人学生、および、非漢字圏日本語学習者に同じテストを実施し、音声モードと文字モードの理解について調査を行う予定

- テストはオンライン化して、期間を限定してウェブ上で公開する予定

## 参考文献

- 松下達彦：日本語の学術共通語彙（アカデミック・ワード）の抽出と妥当性の検証，2011年度日本語教育学会春季大会予稿集，No. 41，pp. 244-249（2011）
- 松下達彦・佐藤尚子・笹尾洋介・田島ますみ・橋本美香：第一言語・第二言語としての日本語語彙量と漢字変換力の測定，2016年日本語教育学会国際研究大会予稿集（2016）
- 松下達彦・佐藤尚子・笹尾洋介・田島ますみ・橋本美香：日本語学術共通語彙の習得－第一言語による違いに着目して－，2018年日本語教育学会国際研究大会予稿集（2018）
- 松下達彦：日本語学術共通語彙リストVer1.01，  
<http://www17408ui.sakura.ne.jp/tatsum/VocabularyRoom/index.html>  
(2019年12月21日参照)

## 付記

\* 本研究はJSPS科研費 18K00679の助成を受けた。